

喜 寿 を 祝 う

＝老境の心の裡を思い語りつつ＝

季節の変わり目が、一番老いの身にこたえると昔から言われるが、どうやら危なっかしい時期に入り、なにかと医者通いにご多忙ではと思い、ここに一文紹介します。

「皺がよる　ほくろができる　腰かがむ　頭は禿げて毛は白うなる
手が震う　足がよろめく　歯は抜ける　耳は遠のく　眼は薄うなる
くとう（くどく）なる　気が短かうなる　愚痴になる
思いつくことみな古うなる　身につくはく頭巾・襟巻き・杖・めがね・
湯たんぼ・温じゃく・しびん・孫の手>　聴きたがる　死にとうも
なる　寂しがる　出しゃばりたがる　世話やきたがる　またし
ても同じ話に孫ほめる　達者自慢に人をあなどる」

＝六歌仙（丹兵衛日記）＝より

これは、江戸時代後期に仙涯和尚が六歌仙と題した絵に賛として添えた文と伝えられる。丁度、今の我々の年代になり、その老境を素直に心の裡を、戯れ歌風に詠み捨てたようだ。余りにも、思い当たることが多すぎるので、思わず書き残して置いたものだ。あえていま書き加えるならば、「それにつけても、政治のだらしなさよ」であろうか。

さて、記憶に新しい今春の3・11東北大震災を、天罰だとする人が居た。もし、そうであるとしても、何故、東北なのかが不可解だ。かつて、松下幸之助翁が「実直であり、勤勉では日本随一」と、賞賛を惜しまなかったこの東北地方が、どうして罰を受けることになったのか、どう考えてみても、不平等の感は誰の胸にもいまだに残っている。そうした暗澹たる思いを拭いきれずに、年の暮れを迎えてしまいました。

幾多の苦難を乗り越えてきた、誇り高いわれわれ世代ですが、此处で踏んばって、もう一山乗り越えねばなりません。その強き思いを胸に秘め、来春二月に再び、熱海の宿で再会し、お互い「老軀の健康と喜寿」を祝して、大きな声で乾杯したいと思います。

平成23年　　師　走

幹　事　一　同